

環境省
内定者の声
2013

~Contents~

1. 内定者プロフィール・・・・・・・・・・ 3
2. 試験勉強等スケジュール、コラム・・ 24
3. 民間就活について・・・・・・・・・・ 43
4. 官庁訪問特集・・・・・・・・・・ 46
5. 内定者データ・・・・・・・・・・ 53
6. 官庁訪問・噂の真相・・・・・・・・・・ 54



この「環境省 内定者の声 2013」の目的はただ1つ。
就職活動中の学生の悩み、つまりー

「どの組織が自分の就職先として相応しいか、そして自分はそこに就職できるのだろうか」

ーそれを少しでも解消すること。
進路選択の一助にしてもらうために環境省の魅力を伝えたい。
目指す進路を実現するための参考資料を提供したい。

そうした思いから、内定者それぞれが、自分たちの就職活動の体験をありのままに描きました。

この冊子では伝えきれない思いや、環境省の魅力はまだあります。
ぜひ説明会や懇親会に来て、職員や内定者の生の声を聞いてみてください。

悩み・質問等があれば、下記連絡先にもお気軽にメールをお送りください。

Mail : env.2014.jimu@gmail.com

平成 26 年度 環境省総合職事務系 内定者一同



内定者



プロフィール

○A（男・21歳）

出身大学・学部	慶應義塾大学・法学部法律学科	出身高校	慶應義塾高校（神奈川県）
サークル	テニスサークル	アルバイト	税務署・本屋
試験区分	法律	席次	351~400番（/446人）
訪問順	1日目：環境省 2日目：なし 3日目：国税庁	併願状況	民間数社・ 衆議院事務局
環境省の説明会への参加回数	7回	人生のテーマ	飾らず、素朴に

✚ 国家公務員・環境省の志望動機

「単なる問題意識を超えて、価値観そのものとフィットした」

自分は元々社会への関心が強く、日本社会の抱える問題に立ち向かう国家公務員という職業に、高校生の頃から漠然と憧れを抱いており、就職活動をする時期になっても、その気持ちは変わりませんでした。

ただ、自分の問題意識は、大学教育の形骸化や東京への一極集中など様々で、どの省庁へ一番行きたいのかということについては（第2・第3志望についても）、ギリギリまで悩みました。

そして、自己分析を重ねた末、「自然と調和した人間社会を作る」という環境省のミッションが、単なる関心・問題意識を超えて、自分の生き方の根底・価値観そのものとフィットしているんだ、ということに気がつきました（中・高時代に触れた、手塚治虫の漫画や宮崎駿のアニメが、自分の人格の形成に影響を与えたのかもしれない）。

これは、採用担当の方がおっしゃっていたことの受け売りですが、環境省は、環境問題に真正面から取り組むことを仕事にできる、稀有な存在です。人生は一度きり。自然と調和した社会を作

るために、日々はたらし続けた。そんな生涯だったら、自分にとってはしあわせだなあ、と思えたとき、心の迷いは消えました。



▲アンコール・ワットの日の出

✚ 学生時代の活動

「ゼミ活動を通して、原典に当たって、正確な情報を得ることを学んだ」

学生時代に最も力を入れて取り組んだことは、ゼミ活動です。自分は、物事を突き詰めて考え議論することが好きだったので、せっかく教授の指導の下、少人数で学べる環境があるのだから、しっかり打ちこんで力をつけたいと考え、課題が多く大変とされているゼミを選びました。

そのゼミの活動は、毎週一題民法の事例問題について、準備として、班ごとに判例や論文などの資料を集め読みこんで、各自の見解を 4000 字程度のレポートにまとめつつ、班としての立場を班員で議論を重ねて決め、本番ではディベートを通して立場の異なる他の班と意見を戦わせる、というものでした。

ゼミ活動の過程で培ったものは、問題文から出題者の意図を読み取る力・問題の所在を見極める力・自分の考えを人に説明し、あるいは相手の主張を理解する力・出した結論を文章にまとめ、人の前で発表する力…と、たくさんありますが、特に、資料集めの段階で、原典に当たって、正確な情報を得るということがいかに重要か、ということを知りました。このことは、日常生活においても活かすようにしています。

もちろん、ゼミのメンバーと協力して班の見解をまとめたり、他の大学との合同イベントを運営したりする中で、人として成長できたことも、ゼミ活動の貴重な成果だと思います。



▲沖縄にて、ダイビングを体験

✚ 受験生へのメッセージ

「自分の外に捏ね上げるものではなく、自分の中から掘り出すもの」

「何をやりたいか」を考えなさいとよく言われますが、まずは難しく考えずに、単純に自分が喜びを感じることを、本当に望んでいることを追求してみてください。それは、自分の外に捏ね上げるものではなく、自分の中から掘り出すもののはずです。

自己分析の方法は、突き詰めて悩む、涙が出るまでひたすら書き出すなど、色々ありますが、自分は、人に話すという方法をお勧めしたいと思います。知人が相手だと、恥ずかしさやプライドが邪魔をして言いづらいかもしれませんが、少し勇気を出して、ありのままの自分を一旦思いつき切り曝け出してみてください。対話によってクリアになることがきっとあります。

そして、本当にやりたいことに辿りついたら、その気持ちを大切に磨き上げて、堂々と主張しましょう。純粋な想いから紡がれる真剣な言葉は、響きが違います。また、自己分析ができているということは、それだけで深い洞察力のアピールになります。

自分を偽って、安全そうな道へ流れるのではなく、緊張感に満ちた危険そうな道を、自ら選んで進みませんか。

○B（男・23歳）

出身大学・学部	北海道大学 経済学部	出身高校(県)	熊本高校 (熊本県)
サークル	TOEFL 勉強会	アルバイト	放送局事務
試験区分	大卒・経済	席次	101～150 番台 (/238)
訪問順	1日目:環境省 2日目:財務省 3日目:外務省	併願状況	なし
環境省説明会への 参加回数	3回	人生の夢	豊かな家庭、豊かな日本

✚ 国家公務員・環境省の志望動機

「私の子供や孫の世代が経済的にも質的にも豊かな生活を送ることができる日本を残したい」

両親が自然を好きだったこともあり、私は小さい頃から身近な自然が大好きで、裏山で遊んだり、祖父母の田んぼで魚や虫を捕まえたり、初夏には家族で蛍を見に行ったりしていました。私はそうした身近な自然が、それに接する人々の豊かな情操を育み、日本の豊かな文化の原動力となってきたのではないかと思います。たとえば浮世絵でも季節の花や動物などの身近にある自然をも描いた作品は多くあります。だから豊かな自然を残すことは、後世の日本人が豊かな心や文化を育むための土壌を残すことになる、という風に私は感じています。

とは言っても、ただ自然ばかりを守ることが良いことだとは思いません。肝心なのは環境と開発の間のバランスを上手く取ることです。「足るを知る」という言葉が表す通り、経済的な豊かさを享受しつつ、かつ精神的にも文化的

にも豊かな社会というバランスは存在すると思います。そして、そうしたバランスこそ、環境省が実現する社会のあり方なのではないかと思っています。



▲日本の秋の代名詞の一つ：銀杏と楓の紅葉

✚ 学生時代の活動

「若いときの苦勞は買ってでもせよ！」

【アルバイト】

大学1年の夏に何か大学生の間しかできないようなことをしたいと思って始めたのが放送局バイトです。色々な団体から送られてきたFAX を担当記者別に仕分けしたり、天気予報

の放送用資料を作ったりすることが仕事だったのですが、私たちバイトの仕事が記者やアナウンサーなど職員の方々の努力でニュースになっていくのを間近で見ることができたのは良い経験でしたし、その一端に関わることができたという達成感もありましたよ。

【サークル活動】

大学1年の秋頃から大学生の中に留学もしてみたいと思うようになり、TOEFL の勉強を始めました。2年生の夏に無事にスコアが出て、留学が認められた時に、「TOEFL のスコアが取れずに留学を諦める人が多い」という話を大学の方から聞いたので、それなら TOEFL の勉強会を開いてはどうだろうかと思って会を設立しました。最初は上手くいか不安だったのですが、運営している中に会のメンバーと打ち解けて来て、楽しい会にすることができましたし、メンバーの多くが無事に留学できたことは非常に嬉しく思いました。



▲米国留学中のハロウィーン祭りに手作りのミイラコスチュームで参加。

【留学】

大学3年の秋から一年間アメリカの大学に交換留学しました。米国の大学で学んだことは、「WORK HARD、PLAY HARD」という言葉です。米国では、平日は夜まで勉強に打ち込むけれど、週末はパーティで目一杯楽しむ！そうしたメリハリの利いた生活のよさを教えてもらうことができました。

✚ 受験生へのメッセージ

「自分の好きなように生きたらいい。」

仕事もプライベートも、もし自分の生き方を選ぶことができるのであれば、自分の好きなように生きたらいい、と私は思います。



〇〇（女・22歳）

出身大学・学部	中央大学法学部 国際企業関係法学科	出身高校	都立立川高校 東京都
サークル	外交研究会	アルバイト	アパレル
試験区分	大卒・法律区分	席次	50～100番（/446人）
訪問順	1日目：外務省 2日目：防衛省 3日目：環境省	併願状況	東京都庁 行政職
環境省の説明会への参加回数	3回	人生の夢	カッコいい大人になること

🌈 国家公務員・環境省の志望動機

「50年後、100年後の将来世代に胸を張って引き継げる社会にしたい」

自分が今現在暮らしている環境を50年、100年先の将来世代に残していくことが現役世代の責務だと思い環境省を志望しました。

人々が生きているなかで、それぞれ満足を感じる瞬間があると思うのですが、私はその瞬間を守る仕事がしたいとずっと思っていました。小さい頃の私にとっては自然豊かな環境の中で遊んでいることが自分にとって一番満足を感じる瞬間だったので、その瞬間を50年後、100年後の子供たちにも引き継いでいきたいと思ったのが環境省を志望した理由です。

学生時代は国際政治に興味があり安全保障について学んできました。安全保障というと軍事安全保障が真っ先に思い浮かびますが、その根本は人々の生命、身体、生活を守るところにあります。人間が生活している地球の環境を守るために持続可能な社会を築き、将来世代に引き継ぐことも、重要な安全保障の1つだと思いました。



▲留学先の大学。濃厚な1年間だった。

🌈 学生時代の活動

「やりたいことは全部やる」

【学業】

イギリスの大学に1年間留学をしていました。現地の学生に混じって授業を受け、ゼミではいかに自分の存在感を出せるかに必死でした。授業のスタイルに慣れるまでは苦労しましたが、最後にゼミの先生から高く評価しているとのコメントを頂けた時はとても達成感がありました。

【サークル活動】

外交研究会というサークルに所属していて、国際政治、国際法の勉強をサークルの仲間としていました。新入会員には試験を課しているのので、ペーパー試験を作ったり、面接官も経験したりしました。

またすべて英語で行う国際法の模擬裁判にも出場し、時には衝突しつつもチームで力を合わせて準優勝しました。

【アルバイト】

アパレルで接客をしていました。様々な年齢層のお客様にお会いするので、相手が何を必要としているのかを常に意識していました。

✚ 受験生へのメッセージ

「自分の直感に素直になること。自分で自分の限界を決めない。」

この言葉は私自身が進路に悩んでいるときに、国家公務員の先輩から言われた言葉です。自分の人生の時間の大部分を使う仕事は、自分自身がワクワクできるものでないと辛いと思います。自分が人生をかけるに値すると思えるものを探すのは大変ですし、私自身何度も悩みましたが、悩み抜いた分覚悟も決まるものだと思います。

国家公務員総合職に挑戦しようとなると、自分の学歴が…とか、勉強始めるのが遅かったから…とか考えてしまうかもしれませんが、自分で自分の限界を決めないでください。国家公務員の話聞いた時や、環境省の説明会を聞いて心が惹かれるのであれば、自分の直感に素直になるべきです。

【旅行・ボランティア】

大学時代だけで 13 カ国を訪れました。学生の貧乏旅行でしたが、現地の人や同じくバックパックで旅行している人たちと仲良くなり、飲みに行ったのは楽しい思い出です。

またインドで地域開発・教育系の NGO に訪問し、ボランティアをしてきました。NGO の間にも格差が歴然とあり、持続可能な支援とは何なのか考えさせられました。



▲留学中の旅行先、ポルトガル

○D（女・21歳）

出身大学・学部	首都大学東京 都市教養学部	出身高校	福岡県立 小倉高校
サークル	GNLF TMU 法学研究会	アルバイト	映画館、学習塾の講師
試験区分	大卒・法律区分	席次	101～150 番台（/446 人）
訪問順	1 日目：厚生労働省 2 日目：文部科学省 3 日目：環境省	併願状況	なし
環境省の説明会への参加回数	2回	人生の夢	意志あるところに道は開ける

🌈 国家公務員の志望動機

「誰がやっても一緒かもしれない。でも、だからこそ、自分がやりたい。」

国家公務員を志望した理由は、「全ての人が自己の能力を生かし、活躍できる社会を実現したい」という思いを抱いたからです。

幼いころからの経験や大学生活、留学等の海外生活を通じて、日本の魅力に気づき、この国を深く愛するようになりました。この愛する日本の国民が各々の能力を生かして日本中・世界中で活躍でき、日本を持続可能で豊かな国にすることはできないか、と考えるようになりました。

その結果、国家公務員であれば、政策を立案することで社会制度を大きく変え、よりよい社会の実現ができると強く思い、志望しました。

国家公務員の仕事は、もしかしたら誰がやって一緒かもしれませんが、それならば強い信念を持つに至った私がやりたいと思ったのです。



▲国際学生会議を開催したチュニジアの海

✚ 学生時代の活動

「思い立ったらすぐ行動。行動することで何か見えてくるものがあるはずだ。」

【アルバイト】

主に映画館でアルバイトをしました。映画館では、チケット販売やグッズ販売、清掃や映写作業等も従業員として行い、接客から事務作業まで多くのことを学びました。元々映画鑑賞が趣味だったので私にとっては天職でした。

【サークル、課外活動】

学生時代は、自分が知らないより広い世界を知りたいという気持ちから、やってみたいと思ったらずい行動に移そうとしました。イギリスへの短期留学や海外での一人旅、チュニジアでの国際学生会議開催等、やってみたい！と思い立ち、無謀にも英語が全く話せないところから出発しました。その結果、たくさん苦勞をしましたが、自分が知らなかった世界を垣間見ることができ、更には知っていたはずの日本の魅力を再発見することができました。この先の人生の中でもきっと重要で貴重な体験ができたと思います。



▲短期留学で訪れたオックスフォード

✚ 受験生へのメッセージ

「適切な量の努力と適切な行動があればある程度の努力は実る。重要なのは強い気持ちと自分を信じる心を持ち続けることができるかどうか。」

就職活動を行う上で、たくさんの苦勞やプレッシャーの中でめげそうになることもあると思います。自分の希望通りに事が進まないこともあると思います。どんな人でも適切な量の努力をし、適切な行動をとれば大方の目標は達成できます。それを実行できるかどうかは、目標を達成するぞという強い気持ちを持ち、自分を信じる心を持ち続けることにかかっています。どんな困難な状況の中でもきっと道は開けます。がんばってください！



▲GNLFの仲間たち。大学2～3年の1年間をかけて国際学生会議の開催に取り組んだ。

○E (男・21 歳)

出身大学・学部	慶應義塾大学 法学部法律学科	出身高校	慶應義塾高校 神奈川県
サークル	律法会	アルバイト	塾講師
試験区分	大卒・法律区分	席次	51～100 番台 (/446 人)
訪問順	1 日目:環境省 2 日目:法務省 3 日目:総務省	併願状況	国会職員 地方公務員
環境省の説明会への参加回数	5回	人生の夢	将来の世代に自慢できる国 を創ること

国家公務員・環境省の志望動機

「人々のよりよい生活は、良好な環境を享受することで初めて実現する。」

私の人生の夢である「将来世代に自慢できる国創り」を果たすには、その前提として、人々がよりよい生活を送ることが必要になります。そしてその上で、よりよい生活は良好な環境を享受することで初めて実現すると考え、環境省の所掌分野に関心を持ちました。

「中長期的・対外的な視点を持ちつつ、常に挑戦する姿勢に惹かれた。」

環境政策はすぐに効果が出ないという性質上、その立案には中長期的な視点が求められます。加えて、環境問題は一国だけでは解決しない場合がほとんどであり、その対応には対外的な視点も不可欠です。そして、東日本大震災以降の対応に代表されるように、環境問題は次々に未知の課題が生じるという特徴を持っており、これを解決するためには常に課題に挑戦し続けなければなりません。

私は、中長期的かつ対外的な視点を持ちつつ、

既存の考え方にとらわれずに常に挑戦する姿勢で課題に向き合う環境省の姿に惹かれ、この省を志望しました。

学生時代の活動

【サークル活動】

「仲間と協力して何かを成し遂げることの素晴らしさを味わうことができた」

「律法会」というサークルで役員として活動し、主に法律の勉強会を行っていました。集団の中心で働くことは昔から大好きだったので、役員に就く際にも特に気後れすることなく自然に立候補していました。

活動の集大成である夏合宿を終えた時には自然に涙があふれてきて、気付いたら仲間と抱き合って互いを労っていました。仲間と協力して何かを成し遂げることの素晴らしさを味わうことができた点で、一生の思い出です。

【アルバイト・社会的活動】

「政治の難しさや奥深さ、面白さを目の当たりにした。」

大学3年から国会議員事務所のインターンとして活動していました。

政党内や超党派の議員同士の会合や有識者からのヒアリングに同席させていただき、政治の現場で行われている熱い議論を肌で感じる日々でした。日頃のニュースなどでは伝わりにくい政治の難しさや奥深さ、面白さを目の当たりにしたことで、国の統治機構に関わる仕事に就きたいという思いが改めて強くなりました。



▲帰省先の佐賀県での一枚。豊かな自然にいつも癒されています。



▲旅行で訪れたニューヨークの摩天楼。

【学業】

「他人の考え方を貪欲に吸収することを心がけた。」

大学のゼミでは民法(財産法)を勉強していました。疑問に思ったり気付いたりした点は積極的に質問し、先生や友人の考え方を貪欲に吸収することを心がけていました。

✚ 受験生へのメッセージ

「他人に決めてもらった進路ではきっと長続きしない。」

官庁訪問での面接で日本の政治についての話題になった時、ある環境省の職員の方が学生である私に対して熱い思いをぶつけてくださり、一方で私の拙い意見も熱心に聞いてくださいました。この面接は今でも私の記憶に鮮明に残っており、今振り返るとこの面接を機に、「環境省は自分に合っている！」と確信したように思います。

各省庁にはその省庁のカラーがあります(環境省の場合は、世の中の様々な問題について熱い思いを持っている方が多いということでしょうか)。そのため、自分に一番合う省庁を見つけることがまず大切です。友達が多く訪問している省庁であっても、自分の性格や考え方にマッチしないことは大いにあり得ます。自分の進路は自分以外の誰も決められません。他人に流されて決めた進路では、きっと長続きしないと思います。

これから受験勉強などで大変なことも多くあると思いますが、がんばってください！

○F（男・22歳）

出身大学・学部	東京大学公共政策 大学院 1年	出身高校	県立福島高校 （福島県）
サークル	体育会水泳部	アルバイト	テレビ局夜勤スタッフ
試験区分	大卒・法律区分	席次	1～50位（/446人）
訪問順	1日目：環境省 2日目：国交省 3日目：農水省	併願状況	なし
環境省の説明会への参加回数	5回（今年度）	人生の夢	とにかく楽しむ！！

✚ 国家公務員・環境省の志望動機

「『既存の社会システムに、自分達が変革を起こしていくんだ』という職員の方々の熱い思いを感じたことも環境省に惹かれた理由です。」

国家公務員を志望した理由は、「たくさんの人に影響を与えられる仕事がしたい」という自分の軸に一番合致する職業だと考えたからです。民間企業のように自社の製品の受け手にだけではなく、日本に住むすべての人に影響を与えられる国家公務員の仕事に大きな魅力を感じました。

その上で環境省を志望した理由は、きれいな水・土・大気といった生活の基盤たる環境を支えたいと感じたからです。地元福島の東日本大震災による被災の状況を見聞きする中で、誰もが安心して暮らせる社会を実現するためには「衣食住」が満たされていることが大前提で、その中でも「住」たる生活環境が重要だなと感じたことがきっかけです。また、官庁訪問する中で、「既存の社会システムに、自分達が変革を起こしていくんだ」という職員の方々の熱い思いを感じたこと

も環境省に惹かれた理由です。体育会系出身で既存のものに満足しないハングリー精神が強かったのも、環境省であれば自分の性格にも合って力を発揮していけると確信しました。



▲地元福島。のどかな風景が好きです。

✚ 学生時代の活動

「コンパ係として飲み会の処理にあたっていたので、気遣いはついていたと思います(笑)」

【アルバイト】

大学4年間、テレビ局の夜勤スタッフとして働きました。1回17時間勤務だったので、体力・根性はかなり鍛えられました（代わりに翌日の授業は犠牲になっておりました・・・）。

【部活・サークル】

体育会の水泳部に大学4年間所属していました。大学時代は部活一色で、「もっと勉強しておけばよかった」と感じて今大学院では一生懸命勉強しています(笑)。また、コンパ係として飲み会の処理にあたっていたので、気遣いはついたと思います(笑)。

【学業】

大学4年次の冬学期のゼミで、大学対抗の交渉・仲裁の大会に出場しました。優秀な仲間や他大学の学生と切磋琢磨する中で、「自分ももっと頑張らねば」と刺激を受ける日々を送りました。



▲大学4年の時の水泳の引退試合。全国大会だったので、皆アツい雰囲気でした。

【就職活動のアドバイス】

自分は去年官庁訪問に失敗しましたが、足りなかった部分を分析して補強してきたからこそ今年採用していただけたんだと思います。自分の強みとそれがどう活かせるのかだけでなく、自分のどこが足りないのか・それを克服するためにはどうすればいいのかを常々考えて実行することが、成長するため、そして思い描いた進路を実現するためには必要だと思います。これを読んでいる受験生の皆さんはまだ面接まで時間があると思うので、自分の弱みをぜひ少しずつ潰していってください。



▲大学院のゼミで岐阜にヒアリングに行く途中の富士山。経験を重ね自分の弱みを少しずつ潰しています。

✚ 受験生へのメッセージ

「自分のどこが足りないのか・それを克服するためにはどうすればいいのかを常々考えて実行することが必要だと思います。」

【環境省の魅力】

官庁訪問を通じて感じた環境省の一番の魅力は、「既存の社会システムに環境という価値を入れるため、変化に貪欲なこと」だと思います。お会いしたどの職員の方も新しいことに積極的に取り組んでいる人ばかりで、変化を容認する風土が非常に強く、人が少ないため若手のうちから裁量が大きいと感じました。

OG（男・23歳）

出身大学・学部	東京大学大学院 経済学研究科	出身高校	富山中部高校 （富山県）
サークル	バスケットボール	アルバイト	塾講師・家庭教師
試験区分	院卒・行政	席次	1～50位（/150人）
訪問順	1日目：外務省 2日目：環境省 3日目：金融庁	併願状況	政府系金融
環境省の説明会への参加回数	5回くらい	モットー	知識を知識で終わらせない

✚ 国家公務員・環境省の志望動機

「国家の直面する問題に挑みたい」

もともとは研究者の道を考えていました。ただ、東日本大震災やTPPなどの問題を見るうちに、実際に現場に立って、直接それらの問題に挑みたいという思いが強くなり、就職に切り替えました。国が直面する難題に挑戦でき、かつ自分が学んできた経済学を活かせるということで、国家公務員はその時から第一志望でした。

学部時代から今に至るまで環境経済学を勉強してきており、環境省には最初から最も関心がありました。50年後、100年後、あるいはその先を考えるのが環境という分野の大きな特徴であり、その超長期的視点から国の政策を考えられるのは環境省だからこそ考えています。

✚ 学生時代の活動

「どうやったら、相手に分かりやすく伝わるか」

大学入学以来、塾講師・家庭教師のアルバイトをひたすらやってきました。教えること自体が好きで、どうやったら相手に分かりやすく伝わるか、を日々考えています。

趣味はスポーツ観戦で、学部時代はよくJリーグを見にスタジアムまで足を運んでいました。大学院生活と就職活動でバタバタして最近では行けていなかったんですが、官庁訪問後に何試合か行ってきました！今度、日本代表戦にも行ってきます！！

バイトとスポーツ観戦以外は、どっぷり経済学に浸かっていたというのが正直なところです。学部時代にゲーム理論や金融論、環境経済学に触れ、その面白さにハマったという感じです。

✚ 受験生へのメッセージ

「人の温もりと科学の冷静さを感じられる官庁」

「人の温もりと科学の冷静さを感じられる官庁」というのが、自分の環境省へのイメージです。環境問題というデリケートなものを扱うが故、人の温もりを感じられるのはもちろんですが、科学との距離の近さも環境省の大きな特徴だと思います。漠然としがちな分野を扱うからこそ、データや科学的知見に基づいて意思決定することが必要であり、この点は他省庁にない特徴ではないでしょうか。「『環境』ってなんかふわっとしてる」と感じている方にはぜひ環境省のそういった側面も知っていただきたいです。



○H（男・21歳）

出身大学・学部	東京大学法学部 （公法コース）	出身高校	私立早稲田高校 （東京都）
サークル	運動会 フェンシング部	アルバイト	塾講師（個別指導）
試験区分	教養	席次	30番台（/53）
訪問順	1日目：経済産業省 2日目：環境省 3日目：財務省	併願状況	民間就活 （商社、独立行政法人）
環境省の説明会への参加回数	2回	モットー	目標に向かって汗をかく

国家公務員・環境省の志望動機 「多角的な視点で20年、50年先を見据えて、今何ができるかを考えよう」

国家公務員を目指そうと考えたのは高校生の時で、漠然と日本のためになることができるのは行政官になるしかないと考えていました。そして大学に入り、いろいろな省庁の方々にお話を伺う中で、日本をよりよくするために行政官がしなければいけないことが2つ見えてきました。1つ目は視野を広く、多角的に物事をとらえること。1つの政策論点には必ずいくつものメリット、デメリットがあり、また多様な利害関係者がいるものです。それらすべてを総合考慮し、部分最適ではなく全体最適を目指すこと…これこそが行政官に求められていると思います。2つ目は20年、50年先の将来を考え、よりよい未来のためには今何をしなければならないのか、そのロードマップをたて、そして実行すること。近視眼的になりがちな目線を将来に向けて、理想像を描き、その実現に向けて行動を起こすこと、この努力が日本をよくしていくはずで

僕は官庁訪問を通じて、こういった理想を実現できるのは、様々な分野に関わりを持ち、またその性質上将来に目線に向けることの多い環境省しかない！と感じました。



▲ 九份（台湾）にて。映画「千と千尋の神隠し」の舞台になった町並み

✚ 学生時代の活動

「中高からフェンシングを続ける一方で、
塾講師の仕事にも挑戦」

【サークル活動】

中高でやっていたこともあって、大学でもフェンシング部(運動部)に所属しています。部では副将を務めさせてもらい、練習計画の立案・実行、部員のサポートなどいろいろな仕事をしていました。また全国大会の企画・実行や、全国優勝に向けて必死で練習し、その結果優勝を果たすなど、非常にいい経験をたくさんさせてもらいました。

【アルバイト】

個別指導塾で塾講師のアルバイトをしています。週2～3回、基本的に中学受験生の指導をしています。

【学業】

法学部に所属し労働法を専攻しています。労働法においてしばしば「労働者は弱者だから、守らなければいけない」といったことが、まるで絶対的な正義であるかのように語られます。これは本当に正しいのか、もっと多角的な視点で、あるいはもっと事案ごとに考えていくべきなのではないか、といった疑問から判例研究・評釈をしています。

✚ 受験生へのメッセージ

「まだ誰も挑戦したことのないことに、自分から挑戦していけることが最大の魅力です！」

環境省のいいところは、まだまだ挑戦しなければいけない課題がたくさん転がっているところだと思います。地球温暖化、原子力問題、越境大気汚染…まだ解決のスキームがしっかりと確立していない分野が多いのが環境行政の特徴であり、また自ら課題を見つけていくのがこの省の歴史でありスタイルでもあると感じています。ですから、まだ誰も体験したことのない問題に自ら挑戦していけること、これがまさにこの省の魅力です。みなさんも、ぜひ環境省に足を運んで、この醍醐味を体感してみてください！



〇I (男・24歳)

出身大学・学部	東京大学 環境システム学専攻	出身高校	青雲高校 (長崎県)
サークル	演劇	アルバイト	スターバックス
試験区分	院卒・行政	席次	1~50番(/150人)
訪問順	1日目:環境省 2日目:外務省 3日目:総務省	併願状況	民間2社、東京都
環境省の説明会への 参加回数	13回	人生の夢	特命係長・只野仁
好きなタイプ	壇蜜		

国家公務員・環境省の志望動機

「環境問題という、間違いなく人類史上最大の難問に、どっぷりと立ち向かえる。こんな贅沢な仕事は他にありません。」

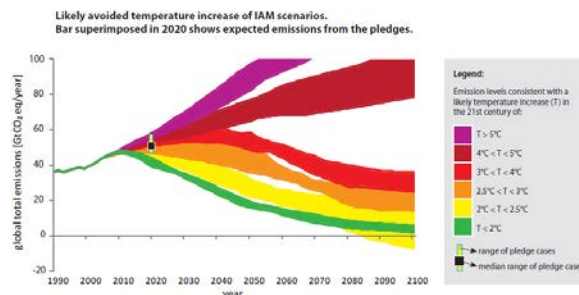
単純な勝ち負けにはやりがいを感じることはできず、世のため人のため、僕のためキミのためになる仕事をしたいと考えておりました。そこで、公益性を第一義として働ける環境という言い訳が欲しく、公務員を志望するようになりました。ただ、私の場合はこれと別に、環境問題に向き合っていきたい、という思いが強く、これを達成できる場は環境省を除いて他にありませんでした。

環境問題に関心を持つ理由は二つ。一つ目は常に声なき弱者が直面する、シワ寄せとして表層化するから。そしてもう一方は、今後の人類規模の環境問題解決は、文明のパラダイム・シフトなしには前進し得ず、これに取り組む壮大さに夢を感じるからです。

皆様がお感じの通り、環境問題を解決したいのは人類皆一緒。ただそこに、とてつもないジレンマが存在するから難しいのです。つまり、環境

問題解決の前進には、包括的視野からの、バランスのとれた検討が不可欠。それも、公益性を第一義とする立場から。

環境問題という、間違いなく人類史上最大の難問に、どっぷりと立ち向かえる。こんな贅沢な仕事は他にありません。



▲ 気候変動は十分抑制されず : Emission Gap Report (UNEP, 2010)

🌈 学生時代の活動

「劇場での徹夜明けから卒論発表に向かったのは、いい思い出です笑」

【サークル活動】

基本的には、学部時代はサークル活動に始まり、サークル活動に終わりました。劇場での徹夜明けから卒論発表に向かったのは、いい思い出です笑。ただ、役割は表舞台に立つ側ではなく、裏方でした。公演全体のマネジメントや統括をしており、まさに国家公務員のような(?)仕事です。プロジェクトを引っ張るだけでなく、ちゃんとその“お世話”をしていく、という事に責任感を感じておりました。決していつでも会えるわけでもないのに、またすぐに会えると思って蔑ろにしてしまう。そんな仲間たちに出会えたのが最大の財産です。

【アルバイト】

スターバックスにお世話になりました。皆で楽しみ、高め合うことが社風として組み込まれている会社です。社風や職場雰囲気の大切さ、可能性を痛感しました。

【学業】

空白の前期教養の後、化学工学の学部に進学しました。水俣病から気候変動まで、常に環境問題に寄り添い続ける化学工学ですが、そのぶん解決には多大な貢献をします。ここで品質管理工学(TQM)について関わりながら、大学院では気候変動をテーマに日々勉強です！



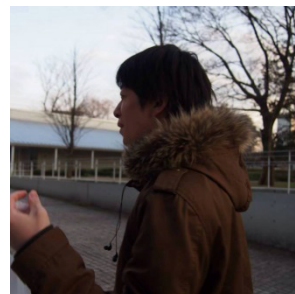
▲某劇場

🌈 受験生へのメッセージ

「一人ひとりが自分の仕事に誇りをもち、これを持ち寄る。きっと素晴らしい世の中ですよね！」

就職活動に限らないことですが、ご自身の直感を大切にされて下さい。“しゅーかつ”が持て囃され、乱暴なくらいに人様の価値判断軸が押し付けられる世の中ですが、惑わされずにご自身の道を選んで頂ければと思います。

一人ひとりが自分の仕事に誇りをもち、これを持ち寄る。きっと素晴らしい世の中ですよね！



○J（女・23歳）

出身大学・学部	東京大学・ 法学部	出身高校	桜蔭高校（東京）
サークル	天文部・ 法律相談サークル	アルバイト	試験監督
試験区分	大卒・法律	席次	201～250番（/404人・既合格）
訪問順	1日目：国土交通省 2日目：環境省 3日目：法務省	併願状況	民間（金融・インフラ）
環境省の説明会への参加回数	5回	人生の夢	他の人を笑顔にできる人 になること

✚ 国家公務員・環境省の志望動機

「人の当たり前前の暮らしを支えられる仕事がしたい。」

最初、人の役に立つことがやりたいと思い、法学部にいて身近な進路だった法曹三者と国家公務員の二つで迷いました。でも「法的紛争に巻き込まれた一部の人のためだけでなく、より幅広い人たちのために働きたい。世の中の問題を根本から解決したい。」と考え、国家公務員を志望しました。

その中でどうやって人の役に立つかを考えた時に、人の当たり前前の暮らしを支えられる仕事がしたいと思いました。自然環境は人が生きていく上での基盤であり、暮らしの豊かさ・安全性のいずれの視点からも大切なものです。他の人、他の世代ともこの豊かさや安全性を共有し、これらを誇りに思ってもらいたい。そして今後の日本が誇れるものとして、自然環境保護と両立した発展を実現したいと思い、環境省を志望しました。

✚ 学生時代の活動

「皆で一つのものを作るために打ち込むのは楽しい」

【サークル活動】

1、2年の頃は天文部と勉強会サークルに入っていました。ちなみに中高でも天文関連の部活に入っていました。大学の天文部は学園祭で自作プラネタリウムを使った上映をしており、3か月近くかけて準備をしていました。この経験を通じて、皆で一つのものを作るために打ち込むのは楽しいと思うようになりました。

3、4年では法律相談サークルに入っていました。元々興味があったので、メインの相談活動にも割と積極的に関わるようにしていました。そのサークルは学園祭で模擬裁判もやっていました。以前の経験から「学園祭で熱心に関わったほうが楽しい。」と思っていたので、仕事が多い台本作成のパートに入って、試験の直前期もサークル活動に時間を割いていました。

✚ 受験生へのメッセージ

「譲れないものを大切にできる場所で働くのが一番いい」

自分にとって譲れないもの、大切なものは何ですか。すぐに答えられない人は、もしかするとそれが「普通」になってしまっていて、自覚がないかもしれません。

自分にとっての「普通」は、思っていた以上に他人の「普通」とは違うものです。一度初対面の人同士で人生の夢について話し合ったことがあります。私は他人に対して何かをしたいと思っていましたが、意外なことにその場の多数派は自分がこうなりたい（成長したい等）ということを挙げていました。

譲れないものはそう簡単に変えられません。それを変えなくてもよい、むしろ大切にできる場所で働くのが一番いいのではないかと個人的には思います。

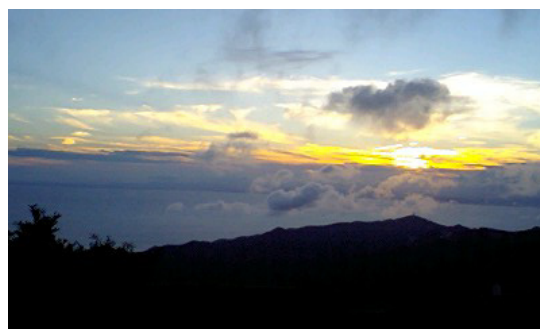


▲友人と新宿御苑に行った時に撮った写真

私は環境政策に興味はありましたが、官庁訪問時点でもそこまで詳しくはありませんでした。ただ官庁訪問で職員の方たちと話し、他のどの省庁の方の考えより共感できると思いました。これが環境省を最終的に選んだ決め手になりました。

官庁訪問をするまで分からないことも多くあります。環境政策に詳しい人は勿論、そうでなくとも、少しでも関心がある方は、是非環境省の説明会、官庁訪問に来て、職員の方に会ってください。そして自分にとっての譲れないもの、成し遂げたいことについてじっくり話してみてください。

どこの省庁や民間企業でも、そうやって話すことで、自分に合った納得のいく結果が得られると思います。



▲大学2年の時、天文部の合宿で行った山で撮った写真

